



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

10月(神無月:かんなづき)にもかかわらず30℃となる異例の暑さとなりました。二十四節気では10月8～23日は寒露(かんろ)と言って、夜が長くなり露が冷たく感じられる頃を指します。朝晩は冷えてきますが、空気が澄んで秋晴れの日が多くなります。

## 【感染症だより】

### ～溶連菌感染症～

溶連菌感染症は、最近ではあまり季節と関係なく流行が続いています。発熱や咽頭痛、目の充血、皮膚発疹、首りのリンパ節の腫れ、舌や唇が赤くなるなどの症状がみられます。初期症状では、嘔気や腹痛、頭痛、関節痛なども多くみられます。発熱のない軽症の方もいれば、高熱が続くこともあります。軽症重症にかかわらず、抗生物質治療による除菌が必要です。内服開始後24～48時間は出席停止です。

### ～手足口病～

先月に引き続き、今年2度目の手足口病が流行しています。潜伏期は3～6日ですが、保育園など集団生活の場では飛沫・接触により一度に複数の子供が感染します。ほとんどの子供は発熱や発疹(水疱)が出て元気に経過して自然治癒しますが、稀に脳炎や脳症を起こすことがあります。ウイルスの型によっては、感染後数週間～数か月後に爪が割れたり剥がれたりすることがあります。爪は剥がれても、後から自然に新しい爪が生えてくるのであまり心配ありません。出血したり、化膿したりする場合には皮膚科を受診しましょう。

### ～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)～

秋から冬にかけてウイルス性胃腸炎の季節です。一般には「おなかの風邪」、「Stomach flu」と言ったりします。食欲低下、嘔気、下痢、腹痛、発熱などがみられます。接触、飛沫によって簡単に感染します。原因ウイルスはノロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルス以外にも何十種類もあります。子供は症状が下痢だけの場合、水分補給が来ていれば一見元気そうです。しかし、頻回の下痢によって脱水症状や、腹痛や嘔吐が起こる可能性があり、自宅療養が必要です。特に乳児では脱水症状を起こしやすいので、十分な水分補給、消化の良いものを与えましょう。嘔気、嘔吐のために水分摂取が困難で、顔色不良やぐったりしている場合には点滴治療が必要となる場合があります。年長児では3～4日で回復しますが、乳児では数週間続くことが多いです。長引く場合には医療機関に相談しましょう。

### ～インフルエンザワクチンについて第二報～

2～19歳を対象とした経鼻弱毒生インフルエンザワクチンが2023年3月に薬事承認されました。鼻の中に直接吹き付ける1回投与(両鼻腔に0.1mlずつ1回投与)のワクチンなので、従来の注射と違って痛みが無いのがメリットです。また、気道分泌型のIgA抗体が誘導されるために予防効果が高いと考えられています。一方、過去にインフルエンザに罹患した方には効果が無いとされています。2歳未満に接種出来ないのは、海外の臨床試験で2歳未満の入院および喘鳴のリスクが増大したためです。

添付文書では、有効率は28.8%と記載されています。また、このワクチンの選定株はWHOが選定した株種3種であり、日本国内の予測株とは異なっています。弱毒とはいえ、生ワクチンであるため、妊婦や免疫不全や免疫の低下した方には使用できません。

ご希望の方は医療機関に接種可能かどうか確認が必要です。

表:9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病	127
2	溶連菌	96
3	胃腸炎(アデノ3ノロ2含む)	70
4	新型コロナウイルス	9
5	咽頭アデノウイルス(7-ル熱)	8
6	とびひ(伝染性膿痂疹)	7
7	水ぼうそう(水痘)	1

★マイコプラズマ感染症とみられる症状の患者さんも多く受診されていますが、迅速検査を行っていないために記載していません。

あんず通信は、ツタパ-はクリニックホームページからご覧になれます。



### ～あんずからのお知らせ～

#### ★空き状況はWebで

しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

#### ★キャンセルをされる場合

留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

#### ★ご予約の際の注意事項

診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

### 予防接種ニュース

令和6年10月よりファイザー社製の小児肺炎球菌ワクチンが13価のものから20価の製品に変わりました。いずれも同じ肺炎球菌に対するワクチンですが、より広い範囲の型に対応します。9月までにMSD社の15価のもので開始した方は原則としてそのまま15価で継続するよう定められています。

